

第29回さいたま市環境影響評価技術審議会

次 第

日 時 平成31年3月11日（月）
午後2時～4時
会 場 ホテルラフレさいたま
4階 櫓の間

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 議 事

（仮称）D P L 浦和美園新築計画環境影響評価調査計画書

- ア 事業概要及び調査計画書説明
 - イ 第1回委員会意見報告
 - ウ 審議
- 5 閉 会

《會議資料一覧》

〈配付資料〉

- 資料1 第29回さいたま市環境影響評価技術審議会
出席者名簿及び座席図
- 資料2 さいたま市環境影響評価技術審議会
委員名簿（第8期）
- 資料3 対象事業の概要及び環境影響評価手続状況
- 資料4 環境影響評価技術審議会委員会名簿
- 資料5 環境影響評価技術審議会第1回委員会意見

〈配付図書（貸出）〉

- （仮称）DPL浦和美園新築計画環境影響評価調査計画書、要約書
- さいたま市環境影響評価条例集
さいたま市環境影響評価技術指針手引
- みその都市デザイン方針

第29回さいたま市環境影響評価技術審議会 出席者名簿

1 さいたま市環境影響評価技術審議会委員

永澤 明	会 長	山本 貢平	副会長
岩崎 久雄	委 員	王 青躍	委 員
金子 律子	委 員	窪田 陽一	委 員
篠原 厚子	委 員	日原 由香子	委 員
藤野 毅	委 員	増田 幸宏	委 員
村上 正吾	委 員	渡辺 愛子	委 員
渡辺 季之	委 員		

2 事業者

【大和ハウス工業株式会社】

埼玉支社	流通店舗事業部	設計部	次長	福岡 和男
東京本店	建築事業部	設計部	次長	伊藤 正澄
東京本店	建築事業部	第一営業部	課長	遠藤 直樹
東京本店	建築事業部	第一営業部		荻野 恵

3 委託会社

【株式会社環境管理センター】

プロジェクト事業部	プロジェクト推進部	部長	斉藤 文夫
プロジェクト事業部	プロジェクト推進部	専任課長	塚田 信男

4 事務局

【さいたま市環境局環境共生部環境対策課】

課 長	黒沢 茂男	係 長	田中 孝幸
主 査	鈴木 慎一	主 任	新岡 真砂代
主 任	辻 信太郎	技 師	中居 弘幸

第29回 さいたま市 環境影響評価技術審議会 座席図

日 時 平成31年3月11日(月)
 午後2時00分
 場 所 ホテルラフレさいたま
 4階 櫛の間

窪田 委員	永澤会長	山本副会長	
岩崎 委員			藤野 委員
王 委員			増田 委員
金子 委員			村上 委員
篠原 委員			渡辺(愛) 委員
日原 委員			渡辺(季) 委員

事務局 (新岡主任)	事務局 (田中係長)	事務局 (黒沢課長)	事業者 (福岡次長)	事業者 (伊藤次長)	事業者 (遠藤課長)
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

事務局 (中居技師)	事務局 (辻主任)	事務局 (鈴木主査)	コンサルタント (斉藤部長)	コンサルタント (塚田課長)	事業者 (荻野氏)
---------------	--------------	---------------	-------------------	-------------------	--------------

さいたま市環境影響評価技術審議会委員名簿 (第8期)

任期 平成29年8月1日～平成31年7月31日

	氏名	職名	専門分野	担当項目	備考
1	いわさき ひさお 岩崎 久雄	芝浦工業大学 名誉教授	電波工学	電波障害	
2	おう せいよう 王 青躍	埼玉大学大学院理工学研究科 教授	大気関係	大気質、廃棄物等	
3	かねこ りつこ 金子 律子	東洋大学 生命科学部 教授	生物学	動物、生態系	
4	くぼた よういち 窪田 陽一	埼玉大学 名誉教授	景観、環境計画	景観、温室効果ガス等	
5	こじま あや 小嶋 文	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授	地区交通計画	コミュニティ、地域交通	
6	しのはら あつこ 篠原 厚子	清泉女子大学 人文科学研究科 教授	環境衛生、健康科学	大気質、水質、有害化学物質	
7	しのみや みほ 四ノ宮 美保	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授	環境化学	悪臭、土壌、有害化学物質	
8	ながさわ あきら 永澤 明	埼玉大学 名誉教授	化学(無機化学・錯体化学・生物無機化学)	水質、安全、放射性物質	会長
9	ひはら ゆかこ 日原 由香子	埼玉大学大学院理工学研究科 教授	植物生理学、分子生物学	植物	
10	ふじの たけし 藤野 毅	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授	水環境学、都市熱環境学	水質、水象	
11	ますだ ゆきひろ 増田 幸宏	芝浦工業大学 システム理工学部 教授	都市環境工学、建築環境工学	日照障害、風害、温室効果ガス、安全	
12	むらかみ しょうご 村上 正吾	埼玉県環境科学国際センター 研究所長	水環境工学	水質	
13	やまもと こうへい 山本 貢平	一般財団法人小林理学研究所 理事長	応用音響学	騒音、振動	副会長
14	わたなべ あいこ 渡辺 愛子	日本女子大学 学術研究員	行動生物学、動物生理学	動物、生態系	
15	わたなべ としゆき 渡辺 季之	一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会 理事	環境分析	廃棄物等	

(仮称) D P L 浦和美園新築計画 事業概要及び環境影響評価手続状況

平成31年3月11日

対象事業の名称	(仮称) D P L 浦和美園新築計画	
根拠法令	さいたま市環境影響評価条例(平成15年条例第32号)	
都市計画特例の適用	なし	
事業者の名称、代表者の氏名・主たる事務所の所在地	大和ハウス工業株式会社 代表取締役 芳井敬一 大阪市北区梅田三丁目3番5号	
対象事業の種類	大規模建築物の建設	
事業実施区域	さいたま市緑区美園一丁目	
事業規模	延床面積 約95,000㎡	
関係地域	事業実施区域から1.5kmの範囲 (緑区、見沼区、岩槻区の一部)	
手 続 状 況	調査計画書受理	平成30年12月25日
	関係地域決定	〃 12月28日
	調査計画書縦覧	平成31年 1月15日～ 2月15日
	意見書提出期間	〃 1月15日～ 3月 1日
	第1回委員会	〃 1月30日
	意見書概要報告	〃 3月中旬の予定
	技術審議会	〃 3月11日
	市長意見	〃 5月中旬の予定 (意見書概要報告を受けた日から2月以内)
備考		

(仮称) D P L浦和美園新築計画に関する
さいたま市環境影響評価技術審議会委員会委員名簿

※ 名簿は、五十音順

氏 名	職 名	専門分野	担 当 項 目
こじま 小嶋 あや 文	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授	地区交通計画	コミュニティ、地 域交通
しのはら 篠原 あつこ 厚子	清泉女子大学 人文科学研究 所 教授	環境衛生、健康科 学	大気質、水質、有害 化学物質
ますだ 増田 ゆきひろ 幸宏	芝浦工業大学 教授	都市環境工学、建 築環境工学	日照障害、風害、温 室効果ガス、安全
やまもと 山本 こうへい 貢平	(一財)小林理学研究所 理事 長	応用音響学	騒音、振動
わたなべ 渡辺 としゆき 季之	(一社)埼玉県環境検査研究協 会 理事	環境分析	廃棄物等

平成31年3月11日

さいたま市環境影響評価技術審議会
会長 永澤 明 様

さいたま市環境影響評価技術審議会委員会
委員長 渡辺 季之

(仮称) D P L 浦和美園新築計画環境影響評価調査計画書に関する
さいたま市環境影響評価技術審議会 委員会意見

さいたま市環境影響評価技術審議会から附議された「(仮称) D P L 浦和美園新築計画環境影響評価調査計画書」について、平成31年1月30日、当委員会において審議したので、その結果について下記のとおり報告します。

記

1 対象事業の目的及び概要

- ・当該事業予定地が「みその都市デザイン方針」(策定者：みその都市デザイン協議会)の対象地内にあることから、この基本理念や実践方針と整合が図れるよう事業を進めるべきである。
- ・当該事業は従来の物流倉庫と異なり、昨今の傾向に沿う新しい形態の物流施設となることが想定されるため、従来とは異なる課題が生じる可能性がある。当該事業を行うにあたっては、周辺地域との情報共有や交流を行うことにも配慮して行うのが望ましい。
- ・当該事業予定地の周辺は土地区画整理事業が進行中であり、今後新たに小学校の開校や病院の開設も予定されていることから、今後のまちづくりの進展を加味し、総合的に判断して計画、運用を進めてほしい。

2 調査方法

【大気質】

- ・大気質の既存資料調査の調査地点を、城南測定局と片柳測定局の2局を選

定しているが、当該事業予定地が東北自動車道及び一般国道122号線に近接していることから、西原自動車排出ガス測定局の選定も検討した方がよい。

- ・大気質の調査では二酸化窒素と共に一酸化窒素も測定してほしい。

【騒音】

・当該事業予定地は準工業地域内にあるが、周辺地域は主として住居の用に供される地域であり、また埼玉スタジアム2002に近接している。そのため、環境に配慮した事業であることを示すために、工事中の騒音について、敷地境界における騒音規制法の規制基準を用いて評価することとは別に、当該事業予定地北側の住宅地に配慮して環境基準の類型区分B地域の基準を用い、また埼玉スタジアム2002公園では憩いの場として会話が妨害されない程度となるような水準で評価することが望ましい。

【地域交通、コミュニティ】

・当該事業予定地周辺は「みその都市デザイン方針」において、快適で安心安全な歩行環境、自転車環境を形成する地域とされ、当該事業予定地周辺道路を横断する歩行者動線も考えられていることから、調査、予測及び評価にあたってはこの方針を十分考慮すること。

・当該事業予定地に近接している埼玉スタジアム2002では年に複数回サッカーの試合が開催され、今後オリンピックといったような大型イベントの開催も予定されている。イベント開催時の現地状況調査を行い、記録するとともに、これらの状況も十分考慮すること。

3 その他

・消防庁が平成29年に策定した「大規模倉庫火災におけるより効率的な消火活動を実施するための今後の方策について」に基づき、当該事業における火災対策を十分に検討すること。

第29回

さいたま市環境影響評価技術審議会

平成31年3月11日（月）

さいたま市環境対策課

午後 2時03分 開会

○田中係長 それでは、皆様、おそろいになりましたので、ただいまから第29回さいたま市環境影響評価技術審議会を始めさせていただきます。

本日司会を務めさせていただきますさいたま市環境対策課の田中でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

初めに、開会に当たりまして、さいたま市環境局環境対策課長、黒沢よりご挨拶を申し上げます。

○黒沢課長 皆様、こんにちは。環境対策課長の黒沢でございます。環境局長の新井にかわりまして、私から一言申し上げます。

本日は永澤会長を初め、委員の皆様方におかれましては大変お忙しい中、第29回さいたま市環境影響評価技術審議会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

また、日ごろから本市の環境行政の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、この場をおかりして、厚く御礼申し上げます。

早いもので、今年度もあと20日余りとなりました。今年度につきましては、技術審議会を3回、委員会を2回開催させていただきました。本市では、ここ3年ほどで環境影響評価に関する相談や図書の提出がふえており、来年度もまた新たな案件について、図書の提出が見込まれておるところです。

さて、本日ご審議いただきます（仮称）DPL浦和美園新築計画は、さいたま市緑区美園にございます埼玉スタジアム2002の北側の土地に物流施設を建設するものです。現在、この地区は土地区画整理事業が進行中であり、来月には、さいたま市美園北小学校の開校を初め、商業施設、医療施設等の建設も予定されるなど、新しいまちづくりが進行しているところでございます。

この後、調査計画書の内容につきましては、事業者からご説明をいただきますが、委員の皆様には限られた時間ではございますが、今後のまちづくりの進展を加味しながら、専門的な見地から忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

結びになりますが、委員の皆様のみすますのご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、審議会の開催に当たりまして私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いします。

○田中係長 それでは、本日ご出席いただいております委員の皆様をご紹介いたします。

初めに、会長の埼玉大学名誉教授、永澤明様です。

- 永澤会長 永澤でございます。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 副会長の一般財団法人小林理学研究所理事長、山本貢平様です。
- 山本副会長 山本です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 芝浦工業大学名誉教授、岩崎久雄様です。
- 岩崎委員 岩崎です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 埼玉大学大学院教授、王青躍様です。
- 王委員 王です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 東洋大学教授、金子律子様です。
- 金子委員 金子でございます。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 埼玉大学大学院准教授、小嶋文様です。
- 小嶋委員 小嶋です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 清泉女子大学教授、篠原厚子様です。
- 篠原委員 篠原です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 田中係長 埼玉大学大学院教授、日原由香子様です。
- 日原委員 日原です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 埼玉大学大学院准教授、藤野毅様です。
- 藤野委員 よろしくよろしくお願いいたします。
- 田中係長 芝浦工業大学教授、増田幸宏様です。
- 増田委員 増田でございます。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 埼玉県環境科学国際センター研究所長、村上正吾様です。
- 村上委員 村上です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 日本女子大学学術研究員、渡辺愛子様です。
- 渡辺（愛）委員 渡辺愛子です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 一般社団法人埼玉県環境検査研究協会理事、渡辺季之様です。
- 渡辺（季）委員 渡辺季之です。よろしくお願いいたします。
- 田中係長 なお、本日は、窪田陽一委員及び四ノ宮美保委員につきましては、ご都合によりご欠席でございます。

さて、審議会規則第3条第2項では、審議会は、委員及び議事に関係のある特別委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないと規定されておりますが、本日の審議会は委員総数15名のうち過半数の13名の皆様のご出席をいただいておりますので、本審議会は成立して

いることをご報告いたします。

続きまして、本日もご審議いただきます（仮称）D P L 浦和美園新築計画の事業者及び関係者も関係者として出席しておりますのでご紹介いたします。

出席者の紹介は、事業者であります大和ハウス工業株式会社様よりお願いいたします。

○福岡次長 ただいまご紹介いただきました大和ハウス工業、埼玉支社流通店舗事業部の設計責任者、福岡と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、環境影響評価技術審議会の開催並びにご出席ありがとうございます。

大和ハウス工業並びにコンサルタント会社、数名出席させていただいておりますので、ご紹介いたします。

まず、横におりますのが、大和ハウス工業、東京本店建築事業部設計部の伊藤でございます。

○伊藤次長 伊藤です。よろしくお願いいたします。

○福岡次長 続きまして、東京本店建築事業部第一営業部の荻野でございます。

○荻野 荻野です。よろしくお願いいたします。

○福岡次長 コンサルタント業務をお願いしております株式会社環境管理センターのお二方になります。

プロジェクト推進部、部長、斉藤様です。

○斉藤部長 斉藤でございます。よろしくお願いいたします。

○福岡次長 同じくプロジェクト推進部専任課長、塚田様です。

○塚田専任課長 塚田と申します。よろしくお願いいたします。

○福岡次長 本来ですと東京建築事業部の営業部の課長、遠藤も参加させていただき予定でしたが、諸事情により欠席となりますことをお許し願います。

以上、このようなメンバーで、本日もご審議いただきますので、よろしくお願いいたします。

○田中係長 ありがとうございます。

最後に、事務局は、さいたま市環境対策課で務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

次に、本日もお配りしております資料の確認をいたします。

まず、会議の次第がございます。その次第の裏面に本日の資料の一覧を記載しております。

資料1といたしまして、第29回さいたま市環境影響評価技術審議会出席者名簿及び座席図。

資料2としまして、さいたま市環境影響評価技術審議会委員名簿。

資料3といたしまして、対象事業の概要及び環境影響評価手続状況。

資料4といたしまして、さいたま市環境影響評価技術審議会委員会委員名簿。

資料5といたしまして、さいたま市環境影響評価技術審議会第1回委員会意見となっております。

そのほか委員の皆様には、本日も審議いただきます事業の調査計画書とその要約書。また、参考といたしまして、さいたま市環境影響評価条例集と技術指針の手引。また、緑色の冊子ですが、みその都市デザイン方針という冊子をお配りしております。

もし、おそろいでない資料がございましたら、お知らせいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(発言なし)

○田中係長 それでは、さいたま市環境影響評価技術審議会規則第3条第1項の規定によりまして議長となります永澤会長に議事の進行をお願いいたしたいと思っております。

永澤会長、よろしくお願いいたします。

○永澤会長 それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

これから議事に入りますけれども、きょうは、傍聴の希望の方はおられますか。

○新岡主任 きょうの審議会には、傍聴希望者はおります。

○永澤会長 それでは、会議の公開、非公開に関する件に関して、事務局からご説明いただきます。

○新岡主任 本審議会は、「さいたま市附属機関等の会議の公開に関する要綱」により、原則公開となっております。ただし、同要綱の規定により、次の事項に該当または該当するおそれがあると認めるときは、会議の全部または一部を非公開とすることができます。1つ目、さいたま市情報公開条例で定める不開示情報に該当する事項について審議し、または意見を聴取する場合、2つ目、会議を公開することにより、当該会議の適切な運営に著しい支障が生ずると認める場合となっております。

会議の公開や非公開の判断は、会長が当審議会に諮って決定するものとなっております。

以上です。

○永澤会長 ということです。今の原則に照らして、今回、きょうの審議会は特に非公開とする理由はないと思っておりますけれども、いかがでしょうか。全て公開ということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○永澤会長 ありがとうございます。

それでは、公開いたしますので、希望の方、入っていただいでください。

(傍聴者入室)

○永澤会長 それでは、傍聴の方にご注意申し上げます。

会議の開催中は、静粛に傍聴していただきますようお願いいたします。それから、傍聴の方はご意見を述べたり質問したりすることはできません。また、会議の録画、録音はご遠慮ください。それから、写真を撮影される場合は、議事の冒頭のみ許可いたします。

以上の注意事項に反した場合は退室していただくこともありますので、ご了承ください。

では、写真撮影のご希望はございますでしょうか。

(なし)

○永澤会長 それでは、ご希望がないということで、議事に進みます。

では、議事に移ります。

(仮称) D P L 浦和美園新築計画環境影響評価調査計画書の手続状況について事務局からご説明ください。

○新岡主任 皆様、資料3をごらんください。

まず事業概要です。

本日審議される(仮称) D P L 浦和美園新築計画は、大阪市北区梅田3丁目3番5号の大和ハウス工業株式会社様の実施する事業です。

この事業は、さいたま市環境影響評価条例に基づき、環境影響評価が実施されることとなります。対象事業の種類は大規模建築物の建設、事業の規模は、延べ面積約9万5,000平方メートルです。事業の実施区域は、さいたま市緑区美園1丁目、関係地域は、事業の実施区域から半径1.5キロメートルの範囲にあります。

続いて、手続状況です。

この調査計画書は平成30年12月25日に受理しました。この図書の縦覧は平成31年1月15日から2月15日まで行われ、意見書の提出期間は3月1日までとなっております。この審議会の開催に先立ち、第1回委員会を平成31年1月30日に開催し、本日3月11日に技術審議会を開催しております。意見書の概要の報告については間もなく行われる予定で、この意見書概要報告を受けた日から2カ月以内に市長意見をお渡しすることとなります。

続いて、調査計画書の概要につきましては、事業者であります大和ハウス工業株式会社様からご説明いただきます。

○福岡次長 それでは、事業の概要について、お配りしております環境影響調査計画書のあら

ましをもとにご説明申し上げます。

まず事業の目的です。

今回の対象事業の実施区域ですが、こちらは埼玉高速鉄道浦和美園駅と埼玉スタジアム2002を中心に、文化・スポーツ・アミューズメント機能と商業・業務機能を兼ね備えた魅力ある新市街地の形成を推進するために土地区画整理事業による整備がなされた「さいたま都市計画事業浦和東部第二特定土地区画整理事業地内」に位置しております。

また、当計画地は東北自動車道浦和インターチェンジの北側約1.5キロに位置しておりまして、計画地の西側には東北自動車道及び一般国道122号が近接しております。南北方向に走り、南側約1.5キロには一般国道463号が東西方向に走るなど、物流拠点として利便性の高い地域となっております。

当社は、創業以来、物流倉庫や貸し倉庫の建設を数多く手がけておりまして、現在、昨今の物流業界における市場環境の大きな変化に伴った幅広い顧客の物流ニーズに応えたマルチテナント型物流センターの開発を行っております。

本事業は、このような背景を受け、交通利便性の高い立地特性を生かした新たな物流施設を建設するものとなっております。

事業者の名称、代表者の氏名、主たる事務所の所在地等についてご説明いたします。事業者の名称は大和ハウス工業株式会社でございます。代表者の氏名は代表取締役、芳井敬一でございます。本社所在地は、大阪府大阪市北区梅田3丁目3の5でございます。対象事業の名称は（仮称）DPL浦和美園新築計画でございます。対象事業の種類は大規模建築物の建設となります。さいたま市環境影響評価条例施行規則別表第1第9号の項になります。計画地の地域区分は、A地域及びB地域となっております。

以上でございます。

続きまして、コンサルタント会社、環境管理センターから引き続きご説明申し上げます。

○塚田専任課長 私、塚田からご説明させていただきます。

まず、2ページ目をごらんください。

先ほど事業者から位置の説明をさせていただきましたが、埼玉スタジアム2002の北西部に位置する、すぐ隣接する位置が計画地となります。

3ページ目をごらんください。

対象事業の概要ですが、用途としては物流施設になります。敷地面積が約3万8,000平方メートル、延べ床面積が約9万5,000平方メートル、最高高さは約36メートルでございます。駐車場

台数大型車約48台、乗用車約165台を予定しております。

対象事業の実施工程ですが、環境影響評価の手続を年内に終え、年末ごろから建設工事に入りまして、約2年間建設し、2021年末頃から供用開始予定で計画をしております。

続きまして、4ページ目をごらんください。

施設計画ですが、上の図が配置計画図になります。下の図が平面図と断面図です。計画建物は、5階建ての物流施設で、計画地の北側に大型車両の入口、出口、それから計画地の南東側に大型車両の出口を配置する計画でございます。

続いて、5ページ目、交通計画ですが、こちらに供用時における関連車両並びに工事中の資材運搬車両の主な走行ルートを示しています。

入庫ですが、東北自動車道の側道として一般国道122号線が走っておりますけれども、こちらの北側から南下しまして、計画地の南西側を左折して、市道597号線に入り、さらに左折して、市道596号線から入るというルートと、それから計画地の西側に市道541号線というのがございますが、こちらから入ってきて、市道596号線の入口から入る、この2ルートを考えております。

出庫は、出口を市道596号線と、市道597号線に出口を1カ所ずつ設けてございますので、それぞれから出まして、市道596号線を左折して、一般国道122号線を南下し、その先は分散するといったルートと、それから市道597号線の出口から出まして、交差点を右折して市道541号線のほうへ向かいまして、一般国道122号線等と交差する交差点から分散するというルートを計画している次第でございます。

続いて、6ページ、7ページ目をごらんください。

環境影響評価項目として選定した項目を、マトリックスで示させていただいております。網かけの部分が選定した項目になります。選定しました項目といたしましては、大気から地域交通まで、まず工事中の建設機械の稼働に伴う予測につきましては、大気質は二酸化窒素並びに浮遊粒子状物質を、騒音、振動、自然とふれあいの場、コミュニティについて予測評価を行っていきたいと思っております。

工事中の資材運搬車両の走行に伴う影響としましては、大気質、騒音、振動、自然とふれあいの場、コミュニティ、地域交通について選定いたしました。

造成等の工事ですが、大気質の粉じんについて予測を行いたいと思っております。また、廃棄物等につきまして、廃棄物と残土についての予測評価を行ってまいりたいと考えております。

続いて、敷地及び施設の存在ですが、こちらは景観並びに日照障害、電波障害についての予

測評価を行ってまいりたいと思います。

施設の稼働及び人の利用ということで、大気質並びに騒音、自然とのふれあい、廃棄物等、コミュニティの予測評価を行ってまいりたいと思います。

供用時の自動車交通の発生ですが、大気質は二酸化窒素、浮遊粒子状物質、炭化水素を、騒音、振動、自然とふれあいの場、温室効果ガス、コミュニティ、と地域交通についての予測評価を行っていききたいと考えています。

それぞれの項目につきまして、調査予測の方法について、8ページ以降で説明をさせていただきます。

まず初めに、8ページをごらんください。

大気質の調査並びに予測について記載をしております。

大気質の調査につきましては、まず既存資料の調査ということで、計画地周辺に大気常時監視局が1.5キロと3キロぐらい離れたところに東西2地点あり、この地点での既存資料を1年間分まとめたいと考えております。

それから、現地で大気質をはかる地点としまして、右の9ページ目にごございます計画区域内の一般環境大気・気象調査地点で調査を1カ月間行い、その期間と同期間に周辺の常監局ではかったデータと比較し、最終的には常監局のデータを使って予測評価を行っていききたいと考えています。

予測の項目につきましては、建設機械の稼働に伴う大気質といたしまして、予測を行っていききたいと思います。

造成等の工事に伴う大気質について、降下ばいじんについての予測を行っていききたいと思えます。

施設の稼働に伴う大気質は、こちらも窒素酸化物総量規制マニュアルを用いて予測を行っていききたいと思っております。

資材運搬等の車両の走行に伴う大気質、それから供用後の自動車交通の発生に伴う大気質につきましては、次の10ページ目に、先ほどの交通計画でルートを説明させていただきましたが、それぞれの予測断面として、ナンバー1、ナンバー2が国道122号線の断面、それから市道541号線の断面としてナンバー3、このあたりは住居が多く位置するところのごございますので、こちらで予測を行っていききたいというふうに考えておる次第でございます。

同じく騒音、振動につきましては、次の11ページ、12ページに記載をさせていただいています。まず騒音につきましては、現地調査といたしまして、ページを戻っていただきますが、9

ページの四角い黒で囲ったところ、ここが一番近隣の住居に近い地点になりますので、こちらで現地調査を平日と休日の24時間、行いたいと考えております。それをベースにして、建設機械の稼働に伴う騒音、施設の稼働に伴う騒音についての予測を行ってまいりたいと思いますが、まず建設機械の稼働に伴う騒音につきましては、原則的に敷地境界の予測地点で予測を行いまして、評価したいと思っております。施設の稼働に伴う騒音につきましては、予測地点として敷地境界並びに近隣の住居及び埼玉スタジアム公園内という地点での予測を行っていききたいと思っております。

資材運搬等の車両の走行に伴う騒音と供用後の自動車交通の発生に伴う騒音につきましては、左の10ページ目に記載の、先ほど大気で紹介した断面での予測を行っていききたいと考えています。

続いて、12ページ目に振動について記載させていただいております。

振動につきましては、騒音と同時に調査を行いますが、予測は、建設機械の稼働に伴う振動について、敷地境界で予測を行いたいと思っております。施設については振動に影響を及ぼす発生源がありませんので、施設については予測をせず、資材運搬車両の走行に伴う振動と、供用後の自動車交通の発生に伴う振動について、先ほどの10ページ目にございました地点で予測のほうをさせていただきたいと思っております。

続いて、景観について、同じ12ページでご説明をさせていただきます。

右の13ページをごらんいただけますでしょうか。

13ページ目に、黒い点で景観調査、予測地点と記載したこの7地点で写真撮影を行いまして、これに対して、供用後、どういう形になるかということで、フォトモンタージュを作成し、予測を行っていききたいと思っております。

そのほか、この地図の中には、自然とふれあいの場調査地点、コミュニティの地点についても記載させていただいております。後ほどご説明をさせていただきたいと思っております。

続いて、14ページ目になります。

自然とふれあいの場につきましては、工事中の建設機械の稼働に伴う自然とふれあいの場と、施設の稼働に伴う自然とふれあいの場ということで、こちらは、先ほどの大気、騒音、振動を予測した結果と定性的な判断を踏まえて予測評価を行いたいと考えています。

資材運搬車両の走行に伴う自然のふれあいの場、自動車交通の発生に伴う自然のふれあいの場についても同様に、それぞれの予測評価の結果から定性的な判断をしていききたいと思っております。

続いて、日照障害、電波障害になります。日照障害については、建物の供用後の日影図を作

成し規制基準との比較で予測評価を行ってまいります。電波障害につきましても、建設物の障害予測の手引等によりまして予測、評価を行っていきたいと考えています。

廃棄物等については、まず工事中ということで、廃棄物の種類ごとの排出量、残土の発生量とその処理の方法という形で予測評価を行いたいと思います。

施設の稼働及び人の利用に伴う廃棄物等の影響としまして、廃棄物の種類ごとの発生量、それから廃棄物抑制とか再使用、再生利用についての状況について、こちらも事業計画に基づき予測評価を行いたいと考えております。

温室効果ガスは供用後の自動車交通の発生に伴う温室効果ガスの予測評価を行いたいと思っています。

コミュニティですが、こちらも自然とふれあいの場で説明したとおり、建設機械の稼働に伴うコミュニティと、施設の稼働に伴うコミュニティ施設への影響、それから車両で申しますと、資材運搬車両の走行に伴うコミュニティへの影響、自動車交通の発生に伴うコミュニティへの影響ということで、これまでの大気、騒音、振動等の予測結果をもとに定性的に評価していきたいと思います。

それぞれのコミュニティ施設と申しますのは、自然のふれあいの場としては、このあたりに遊歩道みたいな自然とふれあうルートというのが、紫色と青色で塗ったルートがございますけれども、こちらのルートがございますので、こちらへの影響ということで判断をしていきたいと思います。

コミュニティ施設としましては、埼玉スタジアム内に公園がございますので、こちらを市民の方がご利用になるということですので、こちらをコミュニティ施設として評価してまいりたいと思います。

それからもう一つ、計画地のそばに自治会館が2つ東北自動車道を挟んで東西がございます。こちらへの影響についても、コミュニティ施設として影響を評価したいと考えています。

最後に、地域交通でございますが、こちらにつきましては、先ほど工事用車両並びに施設関連車両の走行に伴う予測地点、走行ルートをご覧いただきましたが、騒音と振動と同様に交通量の調査も行い、加えて、当該地は埼玉スタジアム2002というサッカー専用のグラウンドがございます。年間何回かJリーグですとか、それぞれのいろいろなイベント、例えばその他のサッカーの試合等がございます、一時的に交通量がふえる場合がございます。今回の施設に関しましても、交通の予測、調査を行いまして、先程騒音、振動をはかった平日、休日のほかに、イベント時の開催時に、前後3時間、交通量の調査を行って、イベント時の予測につい

でも行いたいと考えています。

地域交通の調査地点につきましては、計画地の周辺の3交差点、並びに市道541号線と国道463号線が交差する交差点、この4地点について地域交通の調査を行いたいと考えてます。

最後に、調査計画書までに配慮した事項及びその内容といたしまして、まず自然環境との調和につきましては、建築物の色彩については、原色の使用を避け、落ちつきのある色調とし、街並みとの調和を十分に配慮したものとしてまいります。

埼玉スタジアム2002及び公園施設との調和に配慮し、公園側に緑地を配置します。

周辺道路の交通影響の緩和としまして、三角形の敷地を踏まえ、出入口を3カ所設け、自動車を分散するとともに、市道596号線、市道597号線南側の出入口につきましては、左折IN左折OUTとし、交通影響の緩和に努めます。

周辺的生活環境への配慮としまして、計画地内の建物を極力南側に寄せることにより、計画地北側の近隣住居への配慮とします。汚水排水につきましては下水道放流とし、公共用水域へは直接放流しないこととします。

以上が配慮事項でございます。

○永澤会長 ありがとうございます。

それでは、委員会意見の報告に移ります。

委員会での審議結果については、委員長を務めていただきました渡辺先生からお願いいたします。

○渡辺（季）委員 渡辺でございます。

平成31年1月30日に、本事業に関する第1回委員会を開催いたしました。

委員会委員は、資料4の名簿にあります5名の委員で構成されており、大気、騒音、地域交通などを重点に審議いたしました。審議結果につきましては、事務局から報告をお願いいたします。

○新岡主任 では皆様、資料5をごらんください。

まず、対象事業の目的及び概要についてです。

1つ目、当該事業予定地が「みその都市デザイン方針」の対象地内にあることから、この基本理念や実践方針と整合が図れるよう事業を進めるべきである。

2つ目、当該事業は従来の物流倉庫と異なり、昨今の傾向に沿う新しい形態の物流施設となることが想定されるため、従来とは異なる課題が生じる可能性がある。当該事業を行うに当たっては、周辺の地域との情報共有や交流を行うことにも配慮して行うことが望ましい。

3つ目、当該事業予定地の周辺は土地区画整理事業が進行中であり、今後新たに小学校の開校や病院の開設も予定されていることから、今後のまちづくりの進展を加味し、総合的に判断して計画、運用を進めてほしい。

続いて、調査方法についてです。

大気質です。

1つ目、大気質の既存資料調査の調査地点を、城南測定局と片柳測定局の2局を選定していますが、当該事業予定地が東北自動車道及び一般国道122号線に近接していることから、西原自動車排出ガス測定局の選定も検討したほうがよい。

2つ目、大気質の調査では、二酸化窒素とともに一酸化窒素も測定してほしい。

騒音です。

当該事業予定地は準工業地域内にあるが、周辺地域は主として住居の用に供される地域であり、また埼玉スタジアム2002に近接している。そのため環境に配慮した事業であることを示すために、工事中の騒音について、敷地境界における騒音規制法の規制基準を用いて評価することとは別に、当該事業予定地北側の住宅地に配慮して環境基準の類型区分B地域の基準を用い、また埼玉スタジアム2002公園では憩いの場として会話が妨害されない程度となるような水準で評価することが望ましい。

地域交通、コミュニティです。

1つ目、当該事業予定地周辺は「みその都市デザイン方針」において、快適で安心安全な歩行環境、自転車環境を形成する地域とされ、当該事業予定地周辺道路を横断する歩行者動線も考えられていることから、調査、予測及び評価に当たっては、この方針を十分に考慮すること。

2つ目、当該事業予定地に近接している埼玉スタジアム2002では、年に複数回、サッカーの試合が開催され、今後オリンピックといったような大型のイベントの開催も予定されている。イベント開催時の現地状況調査を行い、記録するとともに、これらの状況も十分に配慮すること。

その他として、消防庁が平成29年に策定した「大規模倉庫火災におけるより効率的な消火活動を実施するための今後の方策について」に基づき、当該事業における火災対策を十分に検討すること。

以上が委員会意見です。

ここで事務局から配付しました「みその都市デザイン方針」について補足します。

お手元にグリーンの表紙の冊子をごらんください。

こちらは、みその都市デザイン協議会が、2017年4月に策定したものです。

当該事業区域を含む浦和美園地区がまちづくりの関係者の連携、協働により、魅力ある都市を実現するため、都市デザイン目標や実践方針、戦略を示したものです。この地区に暮らす人、働く人、訪れる人たちが安心して快適かつ健康的なライフスタイルを実現しつつ、コミュニティの中で楽しく、豊かな時間を享受できるまちを目指したものです。

この冊子には、当該事業地域周辺のマップが掲載されておりまして、地域交通、コミュニティのところで述べた歩行環境、自転車環境については、4ページや12ページに掲載されております。

以上です。

○渡辺（季）委員 委員会報告と、あと補足説明については以上となります。

委員会にご出席された委員の皆様で、この意見書に補足事項等ございましたらお願いいたします。

○永澤会長 委員の先生方、いかがですか。

（発言なし）

○永澤会長 ありがとうございます。

○渡辺（季）委員 以上となります。

○永澤会長 では、この調査計画書について、あるいは委員会意見について、委員の先生方から、どの部分からでも結構です。ご意見、ご質問いただきたいと思います。いかがでしょうか。

（発言なし）

○永澤会長 今の委員会のご意見の中に、「昨今の傾向に沿う新しい形態の物流施設」というのがありますが、どういうことを想定されておられるのですか。

○伊藤次長 大和ハウスの伊藤です。

これは昨今の傾向に沿う新しい物流の施設ということで書いてございますが、昨今、皆様ご存じのとおり、通販事業が非常に伸びております。その中で、やっぱり市場ニーズとしては大型化、集約化の流れがございまして、そういう大型の物流センターで、なおかつそういった運営の効率化が図れるような、ワンフロアの面積が大きいような物流センターというのがニーズとしてございます。

今回計画している建物は、こちらの図面にランプウェーと書いてございましたが、東北自動車沿いなどによく見られるような渦巻き型のスロープを持ったような物流センターでございまして、各階にトラックが上って行って、そこで荷さばきができるような施設となっております。

これは、ここ二、三年でできたというようなものではなくて、この10年ぐらい前から、非常にニーズがふえているような物流センターでございます。

今回の事業は、DPLという名前をつけておりますけれども、これは大和ハウスプロジェクト・ロジスティクスというブランドで、大和ハウスが事業者となりまして、建物を建てて、いろんな業者様に借りていただくという事業となっております。ですので、大和ハウスは建物の建設者であり、かつ事業者となります。実際にはいろいろと特定目的会社を立てて、そちらが事業者となりますが、実質的に大和ハウスの事業になります。

こういった物流施設は、従来型の保管型の倉庫とは異なりまして、そこで物流を確保して、いろいろ生産したものを持ってきて仕分けをして、ラベルをつけて発送するといった機能を持っており、倉庫とはいっても物流機能に重きを置いた計画になります。

その中で、やっぱりどうしても人手が必要になってくるわけなのですが、昨今、人手不足が深刻になっておりますので、そういった中に、我々、いろいろロボット等を導入して、いろんな機械化を進めていく計画となっております。

以上です。

○永澤会長 ありがとうございます。

そうすると、自動車、トラックが入るトラックヤード側というのは、スタジアム側になるということですね。

○伊藤次長 こちらの反対側には住宅が密集しているところがございますので、できるだけそういった部分に、音の伝搬とかがないようにという配慮で、こちらに向けて計画をいたしました。

○永澤会長 ありがとうございます。

○篠原委員 大気質について、工事中のお話はよくわかったのですが、少し気になるのは、供用後、どういう業者さんが入られるかによって出入りの頻度や時間帯も変わるということで、今からそれをどうこうすることはできないにしても、そうなってからの監視というか、必要な場合に、ルートを少し変更なり、出入りの制限なりということを検討してほしいということをつけ加えたいと思います。

○伊藤次長 入り口は今、出入り口は合わせて3カ所しかございませんので、物理的にどこまで対応できるかというのはあると思いますが、先ほどの説明の中で、1点補足させていただこうと思っておりますのは、今、入り口については、こちらの596号線の1カ所となっておりますが、出口につきましては、597号線を中心に考えております。

ただ、埼玉スタジアムでいろんなイベントがあるときは、この道路は非常に混雑することが予測されておりますので、臨時的な出口としまして596号線側の出入り口を使うというようなことで運用上の配慮をしたいというふうに今現在、計画をしております。

テナント業者に車の台数の制限をするというのは、ちょっと施設の性格上、難しいかと思えます。

○篠原委員 これは十分、中に駐車場があるというのは、ご説明でよく理解できたのですけれども。

○永澤会長 実際に今、出入りが問題になっている596号線の向かい側には、もう住宅がたくさんあるのですか。

○伊藤次長 596号線に沿っては、大きなホームセンターがございますので、そのホームセンターの裏側に住宅が、というような状況です。

○永澤会長 わかりました。

お願いします。

○金子委員 今ご指摘のあったことにすごく似ていることなのですが、トラックの交通量や出入りを、もう少し考えていただくことが必要になる場合もあるだろうなというふうに思ったのは、ふれあいの13ページのところの青色の歴史を学ぶルートの通り道と、それから、ちょうど物流センターのところに面している道路を使っているということと、それからみその都市デザイン方針の4ページの徒歩で歩くことが予測されている道路ですが、8番とかになるんでしょうか、8ページの図の上から2つ目の点線で入ってくるところというのが相当人の流れがもともとあるところで、そこがうたわれているところをトラックが通ることになりますので、その点につきましても十分ご配慮をいただければと思います。

○永澤会長 岩崎委員。

○岩崎委員 電波障害のことで、あらましの14ページと調査計画書60ページに書いてあるのですけれども、調査計画書では、スカイツリーと、浦和のに対してとか、BS、CSというふうにならうたっているのですけれども、浦和のとスカイツリーの方向は、どの方向かということも記載されていないんですね。そうすると、どういう方向から来るので、どういう影響が出るのかとか、どの辺の地域を調査しなければいけないというところが見えてくると思うのですけれども、もう少し具体的に方向を入れてもらって、このところに生じる危険性があるから、このところの部分进行调查しますとか、そういう具体的なことを追加してもらいたいなと思っています。

○伊藤次長 ありがとうございます。

○岩崎委員 今のところは何もないので、どこをどういうふうに調査するのかというのが全く見えないので。

○塚田専任課長 机上検討を行っておりまして、スカイツリーの方が、埼玉スタジアム側から計画地に向かってくる電波がございます。今、スタジアムそのものが58メートルぐらい高さがありまして、その陰になるわけではないのですが、今回の建物が36メートルで低いため、スカイツリーからの影響というのはそれほどないと思っています。予測としてはスタジアム関係なく、施設だけで予測を行う予定です。

地方局につきましては、西側から入りまして、今回、住宅地があるその高畑自治会館の方向に向かう予定なんですけれども、そちらの影響もさほどないのかなと思っています。

○岩崎委員 わかりました。ぜひ方向を入れておいて、この地域を特に重点的に調べるというところを表記していただきたいと思います。

○塚田専任課長 ありがとうございます。

○村上委員 既に大和ハウス工業様は、いろいろなところで物流センターをつくっていらっしゃるし、それから、埼玉県内にもひょっとしたらつくっていかれるかとは思いますが、そうしますと、この規模の物流センターをつくったときに、大体どの程度の将来、交通量が発生するか、どういうふうな予測というか、おおよそどれぐらいの台数とかを考えていかれるのか、少し基本的な数値として教えてください。

○伊藤次長 今この場でお答えできないのですが、予測に当たって、既存のセンターが都内周辺にもございますので、そちらの交通量の調査を行って、それをもとに今回の予測値としたいと考えております。今その準備を行っているところです。

○村上委員 どうもありがとうございました。

○永澤会長 ほかにございますか。

どうぞ。

○藤野委員 温室効果ガスについてですが、集約型の施設をつくると、温室効果ガスは、プラスになることは間違いのないと思います。この評価としては、国、埼玉県または市町村が対策にかかわる計画、指針等により定めた基準、目標等と予測結果との間に整合性が図られているかどうかを明らかにするというふうにして書いてあり、調査計画書の144ページにさいたま市の排出量の内訳等がありますが、これと照らし合わせてみますと、今回の施設でどのぐらいの排出量になって、具体的にどういった排出削減の工夫をされる予定であるかということをお聞きした

いと思います。

○塚田専任課長 それにつきましては、これから予測に入りますので、準備書の中で明らかにしたいと考えております。まだ具体的な数字については計算しておりません。

○藤野委員 今までつくってきた例で、同規模のものになるとか、これでは多目になるから、例えば中でたくさん機械を動かすといったときに、CO₂を出さない機械にするなどの考えとか、工夫は常にあるのでしょうか。

○伊藤次長 ここに入られるテナント業者がまだ決まっておりませんので、そういった具体的なところではないんですけれども、今、我々で考えておりますのは、例えば今までの物流センターだと、そのバースに入るまでにずっと待ちができてしまって、そういったところで周辺に車両をとめて待機して、そのアイドリングで非常に温室効果ガスが出るようなことが社会問題になっています。そういったものを解決するために、今そのIoTの技術を使いまして、あそこのバースはどこがあいているから、何時に来てくださいというようなリアルタイムでドライバーさんに知らせるようなシステムを我々が開発しており、そういった業者様と関係を結びまして、順次、新型の物流センターには導入しております。ここもそうなるかどうかというのは、まだこれから検討中なのですが、新型のセンターには、そういった設備を持たせていたりということもございます。

あと、ロボットというものも、例えばアメリカなんかでは、アマゾン等が導入しているようなものなんですけれども、倉庫内の作業というのは、一日に何キロも歩くような作業になりがちで、非常に嫌われる作業になっていまして、なかなかパートさんが集まらないというようなことがございまして、我々のこれもグループ会社なんですけれども、そこで導入している機械は、棚をロボットが持ち上げて、作業者のところに持ってきてくれると、そういった機械がもう既に実用化されています。そういったものを導入する予定にはしているんですけれども、そういったものは電気で動くものでございますので、直接そこでCO₂が出るようなものではございません。

○永澤会長 増田委員。

○増田委員 施設の稼働開始後のことで、1つ教えていただければと思います。先ほども少し関連のご意見がありましたが、例えば埼玉スタジアムで大きなイベントがあって、この時間帯は、こういう人の流れが出るとか、交通がこうなるとか、あるいは小学校でいつもと違う時間に運動会等イベントが開催されるので、こういうご注意をいただければというような地域の情報のようなものを施設側にお伝えするときには、窓口はどういうふうになるのか。あるいはお

伝えした後にテナントの皆様と共有をいただく情報の流れについて、これまでの事例も踏まえ考え方を教えていただければと思います。

○伊藤次長 今回のセンターは、最大、ワンフロアに2テナント程度を想定していきまして、5フロアございますので、10テナント程度入る可能性がございます。そういったテナントが勝手にいるわけではなくて、1階の入り口の部分には、管理室を設けまして、管理人が常駐するような形になっておりますので、そちらに申しただければ、それが各テナントに伝わるような仕組みにはなっていると思います。

○増田委員 ありがとうございます。

○永澤会長 ほかにご意見ございますか。

○小嶋委員 今、埼玉スタジアムのイベント等について話も出たんですけども、調査をされる予定というところに、埼玉スタジアムで試合があるとき、また今年度3月30日もやると思うんですけども、さいたま市が、公共交通が交通渋滞に巻き込まれないようにしようということで、公共交通を優先するような社会実験で、普通のバス以外のところには規制をかけるようなこともされていますので、そういったことを、多分、さいたま市では広げよう、回数を多くするとか、恒常的にやっていこうということも考えていると思いますので、何もそういった規制をやっていないときの調査をされるのであれば、それに加えて、そういった市が施策をやっているときの情報も得ながらやっていただきたいと思います。

もう一点、概要の資料の13ページ、コミュニティ施設の調査というところの自然とのふれあいのということで、紫色のルートと水色のルートが書かれていますが、こちらのほかに埼玉スタジアムの東側のほうにある綾瀬川、今、あまり親水的な機能を持っていないような形だと思うんですけども、こちら市としての計画としては親水公園のような役割を持たせるように、今後、整備していくと思いますけれども、みその都市デザイン方針の10ページに出ていますので、こちらのほうについても考慮いただきたいと思います。

○伊藤次長 承知いたしました。ありがとうございます。

○塚田専任課長 イベント時の調査につきましては、3月2日にJリーグの開幕戦が埼玉スタジアムで行われた際実施しております。開幕戦で地元の方もたくさん応援に来られるということで、その日を調査日とし、調査をいたしました。先程のご意見については、参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○小嶋委員 もう一つ、これまでの先生方から出たご意見のように、物ができてから、そこに入るテナントの方によって、交通がかなり変わるということがものすごく気にかかっておりま

す。夜たくさん来られるようなテナントが来るのかとか、大型車を使うのかとか、小さな車をたくさん使うようなテナントが来るのかとか、ほかにもいろんなテナントさんが入るといことなので、最初に入ったテナントさんが出ていかれて、また次のテナントが入ってくるということもあり得ると思うんですけれども、そういったところのチェックの体制についてもご検討いただきたいと思います。

○永澤会長 ほかにも。

○王委員 大きく分ければ2つ質問があります。1つは大気質についてですけれども、まず、大型車両の駐車場48台と乗用車165台ですけれども、一般的な経験から見れば、大型車は多分、その3倍か4倍ぐらいの出入りの交通量が発生することと、乗用車が多分倍ぐらいですね。ですので、私も122号線をよく通りますが、このあたりへ行くと、かなり渋滞が、特にラッシュアワーの結構渋滞が生じることは多いですね。ですので、できれば低公害車とか、特にこの場所では出入り、自然とふれあう場、いろんな自転車とか走行車が多いですので、なるだけ環境をよくするのは、調査計画書の1ページと103ページ、全体的にさいたま市の中でもかなり濃度が低い地域ですよ。ですので、その意味ではそこで計画されていると思うので、できるだけ大気汚染が発生しないような低公害車を使用したりとか、あとルートは596号線といっても、122号線に合流すると渋滞になってしまいますので、例えばラッシュアワーを避けて、時間計画を少し事業所に出させたりとか、そういうようなことも必要だと思います。

今回の調査を見ると、浮遊粒子状物質、つまりSPMしかやっていないですけれども、一般的にPM2.5は測定するのは当たり前のことですよ。できれば、その地域でもPM2.5の計測器をつけたり、今回の予測でも、少なくとも現状よりそんなに悪くならないことが望ましいと。ですので、PM2.5を含めて調査を入れていただきたいというふうに希望します。

もう一点、廃棄物等の排出抑制ももちろん大事ですけれども、再生使用、再利用という観点から見て、どのような計画を考えられているか。実際に廃棄物の種類にもよりますが、それにあわせてどのようなことを考えて、それもあわせてお答えいただければと思います。

以上2つです。

○塚田専任課長 SPMについては、ご指摘いただいたように予測をさせていただきたいと思っています。

PM2.5の予測については検討いたしますが、もう一回、現状の値を、既存資料等を用いまして把握していきたいと思っております。

○伊藤次長 廃棄物については、基本的にはテナント様が、事業系廃棄物についてはテナント

様で処分されているケースが一般的だと思います。物流センターですので、主に段ボールですとか発泡スチロールなんかが出る頻度が多いですが、そちらは割合、テナントさんを見ている限りは、どちらも再利用されていると思います。

一般の事務所のごみにつきましては、ごみ置き場を設けますので、そちらの中にさいたま市の基準に従って分別ができるような施設を設ける予定でございます。

○永澤会長 ほかにございますか。

○渡辺（愛）委員 今回は、造成地、つまり既に造成ができ上がっている場所ということで、動植物、生態系への直接の改変はないということで調査項目には選ばれてないと思うのですが、それに関して、2つ気になったことがあります。1つは、まず動物については、工事や供用による直接の影響や、危惧される点、例えば動物がいなくなるというようなことは考えにくいと思います。けれども、例えば近隣に自然公園が近いとか、自然とのふれあいの場があるということで、交通量がふえることに伴って、そういったところに全く影響がないとは言い切れないと思います。ですので、何らかの形で配慮をする、あるいはこういうことを配慮していく予定だということを、何がしかの形で検討していただきたいなというのが1点めです。

もう一つは、植物生態系なんですけれども、今回の対象の場所に何らかの植栽とかをされる予定、あるいは計画はあるのでしょうか。

○伊藤次長 市の基準に従って植栽をいたします。

○渡辺（愛）委員 そうですか。そうしますと、例えばもう既に、隣に埼玉スタジアム、公園になっているものがありまして、そちらの緑地との兼ね合いとか、そういうのも出てきますので、供用した後のプラスの部分、例えば新たにつくられる緑の量の部分とか、隣接地にある植物種との連続性や関連性といったことについても、何らかの形で評価の項目、評価の対象として挙げられないか、検討していただけたらと思います。

○塚田専任課長 直接的な植物の項目としては、今のところ考えてはいないんですが、何らかの配慮という形で考えていきたいというふうに思います。

○渡辺（愛）委員 ありがとうございます。

○日原委員 今の質問に関連しているんですけども、これはみその都市デザイン方針の6ページのところを見ますと、ちょうどこの倉庫ができる、一番左上のところに、街の入り口といって赤いマルがついているんですけども、これはどういうことかというふうに見てみると、何かエリア内を明示するゲートとか、モニュメント設置とか、シンボリツリーを植えるとか、照明デザインとか書いてあります。これはかなり敷地に近い部分というか、上のかぶる部分だ

と思うんですけども、このあたりというのは、どうされるんですか。

○伊藤次長 これは行政がするものなのですか、民間の事業者がするものなのでしょうか。

○日原委員 ちょうどその場所が一致していると思うんですけども。

○新岡主任 業務方針自体は、行政と民間と一体となって行うものですよね。

○日原委員 何らかの相談をして。

○伊藤次長 していないというのものもあるんですけども、何かしら、今後の協議の中で、できることがあれば考えたいと思っておりますが、現時点としては、特別そういったものの計画はございません。

○日原委員 6ページの右下のところを見ると、街の入り口を示すモニュメントだとかシンボルツリーというのが書いている、何かそういうイメージがもしかしたらあるのかもしれないと行政側としては、何か相談が必要になってくるかもしれません。

○伊藤次長 承知いたしました。これはどちらとご相談すればよろしいでしょうか。

○田中係長 事務局からご説明します。

このみその都市デザイン方針自体は、さいたま市行政が主体となってつくっているものですので、今回の大和ハウスさんの計画の中で、具体的にこの方針に合うようなモニュメントだとかシンボルツリーを設置してくださいというお話は、恐らくしていないと思いますけれども、今後、具体的に協議を進めていく中で、市から何かお願いすることがあるかもしれませんが、まだ今のところ決まってはいないという状況でございます。

○永澤会長 ほかにございますか。

今のお話だと596号線というのは、結構、交通量は多いですか。122号線から入っていく道ですよ。122号線から左折して入ると門があって、片側にホームセンターがあって、もう一つのところに流通センターがある、まちの入り口になるということですね。ですから、そこを格好よくつくれば、なかなか見栄えはいいのかもしれないですね。その辺をお考えいただくといいいのかもしれない。

○伊藤次長 できることがあれば行いたいと思います。

○永澤会長 ほかにございますか。

○藤野委員 もとは水田放棄の場所で、今までは雨が降ったときの浸透性は確保されていたんですけども、今回は水象や水質は調査項目に入っていないんですが、全部舗装をされますよね。だから、水象への影響というのは無視できないんじゃないかと思いますがいかがでしょうか。

○塚田専任課長 緑化計画もありますので、地下には浸透すると考えております。

○藤野委員 私は農業大学校だったところを開発するとか、県でも聞くんですけども、措置をとっても、効果は5%とかその程度なのですよね。それを、どうやって今後、30%とか、せめてそのぐらいにならないものかなといつも思います。業者さんは、できることはやると言うんですよ。だけれども、実際のところこれは評価ですから、数字で見ると、対策がとれているとは、なかなか言いがたいケースが多いなと思うんですね。ですから、このあたりはやはり最低でも2割か3割ぐらいですか、そのぐらいの目標を持ってやっていただきたいと思います。この地域はかなり都市化が進んで、綾瀬川の水に与える影響とかも、きっとあるのではと思いますので、なるべく定量的な目標を定めて実行していただきたいと思っています。

○永澤会長 これは先生にお伺いしたほうがいいのか、今この辺の地域で地下水の環境基準で、窒素を超過しているところがありますよね。こういう施設をつくと、それはよくなるのですか。要するに水田とかそういうものが減ればよくなるのか。

○藤野委員 いや、それについて地下水は難しいのですけれども、滞留時間の問題だとかあって。

○永澤会長 見沼の水、地下水ですよ。大宮のほうから流れてくる。

○藤野委員 そうですよ。

○永澤会長 水ですよ、調査計画書の112ページに、窒素の環境基準が超過していると書いてある。

○藤野委員 実は埼玉県全体でいっても窒素は極めて高い、全国で一番、河川でも一番高いというのが埼玉県の特徴です。

○永澤会長 そうなんですか。

○藤野委員 これは地質由来なのか、人工由来なのか、両方と言われていますが、窒素に関しては高いというのがもともとの特徴ではあります。

○永澤会長 直接その施設をつくっても、地下水には影響はないわけですよ、恐らく、工場ではないし、地下水をくみ上げるわけではないし。

○藤野委員 ではないということであれば、地下水に何らか、すぐに何かあるということは考えにくいと思います。

○永澤会長 私もこのパンフレットの6ページの水質や水象に関しては、稼働後のことも含めて触れていないので、いいのかとは思ったんですけども、そういう意味では、恐らく余り変化はないと思ってよろしいですか。

○藤野委員 通常大規模施設であれば、何らかの措置は考えるはずですよ。例えば調整池をつく

るとかですね、今回はその状況がわからないのですけれども。

○永澤会長 例えば委員会報告の最後のところに、火事に対する対策を、とあります。例の埼玉県内で起こった火事と関係しているのでしょうかけれども、こういう要請があった場合に、実際にどういうことをお考えになりますか。池か何かつくるのですか。

○伊藤次長 我々、こういった大型施設をつくる時、さっきおっしゃられたような雨水貯留槽ですとか雨水浸透槽の設置などを計画するときもあります。基本的には行政からの要請によって行っております。各行政で宅地開発の条例がある場合がありますので、その場合はヘクター、何立米、というような施設を計画しておりますが、そうでない場合は、インフラがしっかりできているという理解で、自主的に設けているようなことはございません。一般的に、それはそういった要請があるのは、地下水に戻すという目的もあるのだと思いますが、インフラがあふれてしまうというようなケースのほうが多いと思います。

あと、消防の件については、あの三芳町の火災以降、消防庁でガイドラインを出されています。あの火災は倉庫の内部で燃えた火災が、外からなかなか消せなくて、それで消火に非常に時間がかかってしまったので、そういった倉庫の中に、いろいろ防火区画という区画があって、延焼しないような蔵があるんですけれども、そういったものが外壁に面していない倉庫の場合は、非常に措置が厳しくなるんです。スプリンクラーを要請されたり、そういったことがございますが、今回はまずそういった形式ではございませんので、これはもうあらかじめ消防と1回協議をしております。その中で、今回はさいたま市内で5万平米を超える、倉庫としては初めての物件なんで、基本的にはガイドラインに従って指導しますということで、これははっきりおっしゃられておりましたので、基本的にはガイドラインに従った計画としております。

○永澤会長 ありがとうございます。

○藤野委員 今、地下水の表の5の1の38を見ていたんですけれども、一番下の中野田とか大門ですね、中野田の52というのが、これはちょっと考えられない高さです。これは行政がしっかり監視してやらなきゃいけないレベルですね。これは特に亜硝酸なんかで多ければ、例えばすぐ血液のヘモグロビンを取っちゃうとかということで、そういう死亡事故が起きます、これはもうそういうレベルです。

○新岡主任 承知しました。ありがとうございます。

○日原委員 調査計画書の102ページを見ていて、素人でよくわからないのですけれど、光化学オキシダントの測定結果は、全部これは環境に達しておらず全部バツがついています。この環境基準を見ると、昼間の1時間値が0.06ppm以下と書いてあって、それは年の平均でいうと、

それ以下な気がするんですが、日数で見ると、昼間のそれを超えてしまった日もあるということで、これはバツになるということなんですか。これは、この地区が特別こうなるのか、基準が厳しいから、大抵のどの地域でもバツになってしまうようなものなのかというのは、これはどういうことなんでしょうか。

○篠原委員 光化学オキシダントって1年に1回でもオーバーするとだめという評価になる項目なので、364日大丈夫でも、1回オーバーすればバツなので、ほぼ100%達成していないという項目なのです。

○日原委員 どこの地区もバツになっちゃうほどの。

○塚田専任課長 基本的に埼玉県内のどこでも今、超えています。

○玉委員 特に夏は。

○日原委員 夏は超えるのですね。

○永澤会長 ほかに何かございますか。

○小嶋委員 先ほど日原先生からコメントのあった、みその都市デザイン方針について、どうやって、そちらに沿った活用をされていくのかという関係のお話の中で入り口に接しているじゃないかというお話があったんですけども、この方針を出している協議会には、地域の方、さいたま市の方、埼玉県の方、行政の方など、冊子を見ていただくと、全部記載がありますけれども、イオンさんとか、駅の近くにある大型のイオンさんですとか、埼玉高速鉄道ですとか、民間の事業者さんも一緒に入ってこの方針を実現しようとやっているところです。窓口は美園タウンマネジメントとさいたま市の浦和東部まちづくり事務所です。こちらの協議会と連携して事業を進めていっていただきたいなと思います。

○伊藤次長 一度連絡とってやりたいと思います。

○永澤会長 ぜひ委員に入って、会議に入ってください。

ほかに。

○渡辺（季）委員 まず1点目は、ランプウェーが住宅地側にできるということで、こちらについては、もしかすると、騒音が大きくなったりする可能性があるということと、あともう1点はこの付近にはホームセンター、それから触れられていませんが大型の電気店、あるいは2002の公園、そして付近に小学校ということで、人が集まる場所が多いということで、この交通に十分配慮していただきますようお願いしたいと思います。

○永澤会長 ほかによろしいですか。

○増田委員 これはコメントですが、今回、みその都市デザイン方針をご紹介いただいて非常

によかったと思います。環境行政と都市行政、建設行政は基本的に別に進んでいるものですから、連携したり情報共有したりするのがなかなか難しいという側面もございます。美園地域では、関係者の皆様で将来像ですとか、今どういうまちの動きがあるのかということをして是非全体として共有していただいてまちづくりを進めていただくと非常にありがたいと考えています。

○山本副会長 私、現場を見せていただいて、そのときにお聞きしたかもしれないのですが、この市道の596号線とか市道の541号線ですか、現場を見て中途半端な道路だなと思ったのですが、みその都市デザイン方針を見ると、延伸がちゃんと書いてあるなと思いました。そしてこの延伸がちゃんと実現していくと、供用後の交通の便がかなり変わると思いましたので、市道が延伸するのは、いつごろなのか、教えていただきたいと思います。関係はないんですけども。

○田中係長 これにつきましては、前回、委員会の後にご指摘いただいた後に、まちづくり事務所のほうに確認をとっておりますが、現時点では、いつ、この延伸道路が開通するかという予定は立っていないということです。

○山本副会長 わかりました。デザイン方針としてはあるけれども、いつできるかわからないということですね。でも、これができるのと、かなり交通の流れが変わるだろうなというのは容易に推定できると思います。ありがとうございます。

○永澤会長 ほかに先生方から何かございますか。

大体ご意見、ご質問いただきましたでしょうか。

(発言なし)

○永澤会長 以上をもちまして、この計画案に関する審議、これまでといたしたいと思います。今、いろいろ委員の先生方からご意見がありましたように、ぜひ都市計画案に沿ってきれいな流通センターをおつくりいただけるとありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくご配慮ください。

それでは、この議事に関しては、委員の皆様からいただいたご意見をもとにして、審議会としての答申を取りまとめたいと思います。

答申案につきましては、今のご意見をもとに事務局で作成していただいて、委員の皆様にご確認いただいて、最終判断は私にお任せいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

○永澤会長 ありがとうございます。

それでは、これをもって議事を終了したいと思います。

傍聴者の方はご退席願います。

(傍聴者退室)

○永澤会長 それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○田中係長 永澤会長、そして委員の皆様、大変ありがとうございました。

それでは、事務局から2点ほどお伝えをさせていただきます。

まず、今、会長からお話しいただきましたように、本日の議事に基つきまして、事務局で答申案を作成いたします。また、議事の内容につきましても議事録を作成いたしまして、今後、市のホームページで公表することになりますので、まず事務局で議事録のまとめ、それから答申案の作成をいたしまして、一度委員の皆様にもメール等でお送りいたしましてごらんいただきましてご確認をいただきます。その上で答申案につきましても、最終的に事務局で取りまとめ、永澤会長に最終のご確認をいただきまして内容を決定させていただきたいと思っております。

また、市長意見につきましても、審議会答申をもとに私どもが作成いたしますが、冒頭にご説明いたしましたとおり、4月の下旬あるいは5月中に事業者に対して市長意見を述べる予定になっておりますので、市長意見がまとまりましたら、そちらも委員の皆様にご参考にご送付いたしたいと考えております。

また、2点目でございますが、今後、また新規の案件が近々提出される見込みがございます。こちらにつきましても、またすぐに委員会の委員の先生のご指名をさせていただきまして、委員会の開催、また審議会も順次7月ごろを予定しておりますが、開催をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、本日お配りしております、参考にお配りした資料は、そのまま机に上にお置きいただきまして、事務局で回収させていただきますと思ひます。

事務局からは以上となります。

それでは皆様、長い時間、ご審議いただきまして、大変ありがとうございました。

以上をもちまして、第29回さいたま市環境影響評価技術審議会を終了いたします。

午後 3時36分 閉会